

変革の中で気づいたこと

～ 地区担当制への転換から ～

平成29年9月30日

所沢市保健センター健康づくり支援課

保健師 松本加代子

本日の内容

1. 所沢市の概要
2. 地区担当制への転換から地区診断までの経過
3. 地区診断開始後の取組
4. 地区診断取組後の変化
5. 今後の課題



1. 所沢市の概要

所沢市は、都心から30kmの首都圏に位置する豊かな自然と都市機能が調和した町であり埼玉県南西部の中心的な都市として発展



- 人口：343,986人（男 170,882人、女173,104人）
- 世帯数156,403世帯
- 4歳までの人口：13,415人（3.9%）
- 65歳以上の高齢者：88,498人（25.7%）
- 平成28年度出生数：2,574人

【平成29年3月末現在】

保健師の組織体制



○保健師数 49人

●健康推進部 36人

- ・保健医療課 1
- ・保健センター 健康管理課 1、こころの健康支援室 2
健康づくり支援課 3 2 (うち国保兼務 3)

●福祉部 5人

- ・高齢者支援課 3、介護保険課 2

●こども未来部 5人

- ・こども支援課こども相談センター 3
- ・こども福祉課 1、保育園 1

●総務部 1人

- ・職員課 1

●市民医療センター 2人

所沢市の行政区



<< 健康づくり支援課保健師の体制 >>

地区担当		人数（名）	業務担当
西チーム	三ヶ島1	3	母子 リーダー 1名
	三ヶ島2		
	山口	2	
	上山口		
北チーム	並木	2	
	新所沢	2	
	新所沢東	1	
中央チーム	吾妻	2	
	所沢	3	
東チーム	富岡	2	成人 リーダー 1名
	柳瀬	2	
小手指チーム	小手指1	2	
	小手指2	2	
松井チーム	松井西	2	
	松井東	3（内1名国保）	
兼務 管理P			
国保兼務		3 （リーダー・地区担当兼務 2）	管理・国保
リーダー保健師		1	
合 計		32名	

2. 地区担当制への転換から 地区診断までの経過



保健師業務担当の変化

- 平成5年度まで、地区担当制で業務遂行
 - 母子保健：健診と愛育班育成中心
 - 成人保健：老人保健法の健康教育・健康相談と地区活動
- 平成6年度から母子保健係、成人保健係に分かれる
 - 地区担当もそれぞれ分かれる
- 平成10年度に保健センター開設
- 平成13年度より母子保健課、成人保健課となる

機構改革による変化

●平成25年度機構改革

保健福祉部 ⇒ 健康推進部

母子保健課

成人保健課

健康づくり支援課

「地域保健対策の推進に関する基本的な指針」



●機構改革プロジェクトチーム発足

- ・平成27年度から、1地区2～3名で担当
- ・ケース対応は、子ども～大人まで担当
- ・地区担当制の推進と地区活動を展開

地区担当制転換の課題

- ① 成人・母子業務の融合と、すべての業務・ケースに対応できること
- ② 業務評価と地区診断による課題の抽出から、有効な保健活動を整理し、取り組む
- ③ 業務を整理、保健センター事業中心の業務形態から地区活動への転換。

- ① 成人・母子業務の融合とすべての業務とケースに対応できること



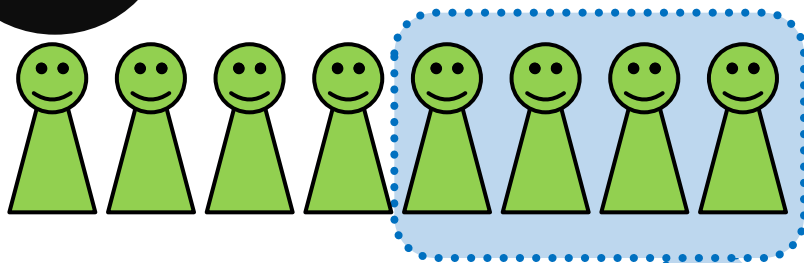
平成26年度～業務推進体制の変更

- 元成人担当、元母子担当保健師を
半分ずつシャッフル

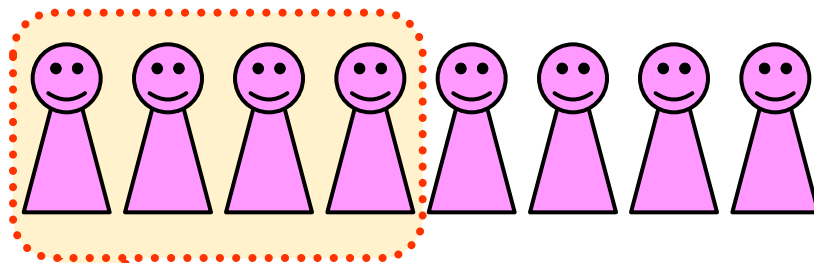
*次ページ図参照

平成
25年度

成人事業担当



母子事業担当



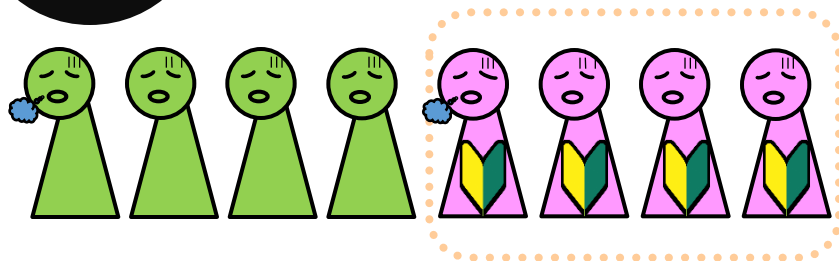
母子へ

成人へ

平成
26年度

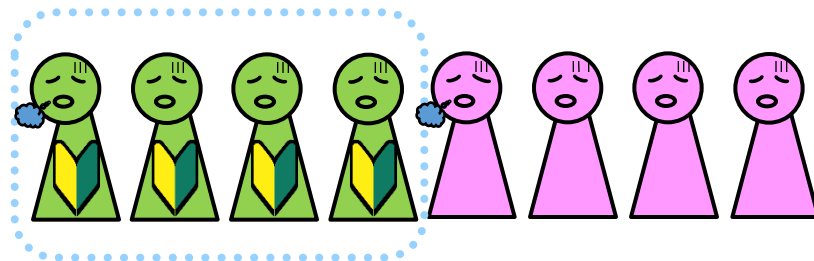
NEW

成人事業担当



NEW

母子事業担当



保健師への個別面接実施

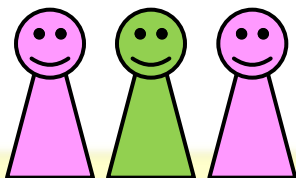
「事前アンケート」を元に「保健師グループリーダー」
保健師が全員に面接、結果をプロジェクトで検討

《 アンケート項目 》

- 新体制への意見
- 地区担当制が遂行できそうか？
- どのような保健師活動をしたいか？



保健師たちの声



- 決まったのだから、しっかりやろう
- 地区担当制の最終的な姿を見られたら頑張れる
- 地域に出かけ、自分の目で耳で地域の人々の生活を知りたい
- 地区で把握したことから地区診断をして、本当の健康課題に近づく取り組みをしたい
- 根拠を明らかにした本当に住民に役立つ仕事をしたい
- 地区診断した結果に向かって、皆で心を1つにして取り組みたい

機構改革プロジェクトで認識されたこと

＊ 1人1人の気持ちは貴重。皆で共有したい。

＊ 地区担当制になったのに、地区活動・地区担当制の

目指すものについて全員で話し合ったり、学ぶ機会がなかった！

＊ 地区担当制について一緒に学び、皆の思う
地区活動について共有する機会を作ろう！



地区診断開始に向けて



平成26年11月 杏林大学大木先生に相談



平成27年 1月 講義・グループワーク
テーマ「保健師の行う地区活動」



平成27年 5月 講義・グループワーク
テーマ「保健師の行う地区診断」

大木先生から学んだこと

- 地区診断の段階から住民と関わりながら進めていく
- 地区の課題を住民に伝え共有し、解決に向かって合意する

グループワークでの保健師の声

- 地域に出たい
- 地域住民と関わりたい
- 地区診断の結果を持って住民と意見交換したい



3. 地区診断開始後の取組



① 平成27年度・・・地区診断

枠組み：「アセスメントシート」

（健康診断型の地区診断）

ゴール：地区の健康課題を伝える教育媒体
A3裏表のもの

取組み：可能なデータは一括収集
まちづくりセンターにヒアリング
地区ごとの判断で把握

共有：中間報告会、年間報告会で診断の
取組・結果・教育媒体を発表

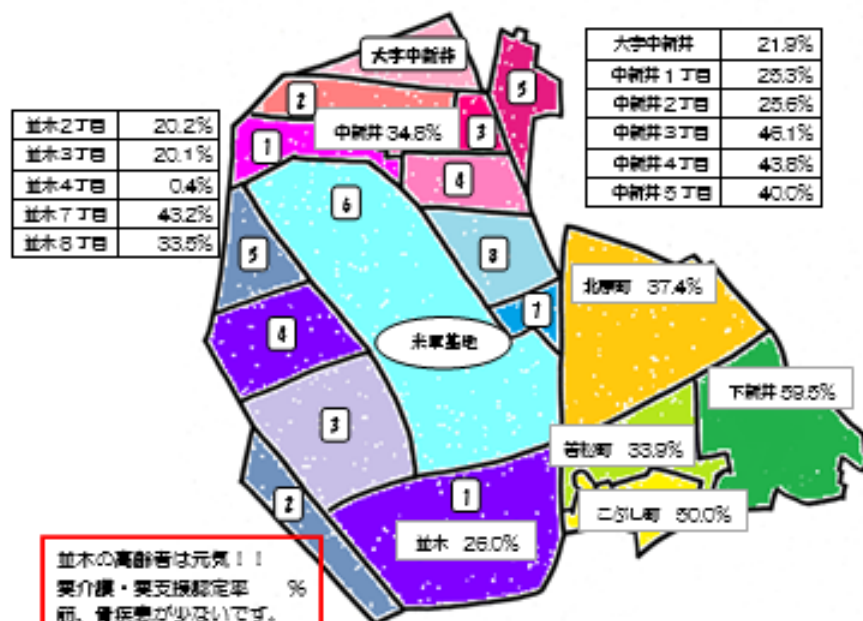
《 アセスメントシート 》

		平山さん提案項目	全市単位で把握する項目	各地区で把握する事柄 ⇒ アセスメント
A サード 対象の 構成の 明確化	① 地区住民および生活条件の成り立ち: どのような人がどのような生活条件の中にくらしているか	a. 人口構成 b. 地理的条件・気候条件 c. 交通・通信の条件 d. 産業の実態・職業の実態 e. 所得・消費生活の実態 f. 政治的・文化的環境 g. 精神的風土・犯罪・非行 h. 市町村の行財政 i. 公的施設 など	a. 人口: 男・女・年齢別(高齢者・後期高齢者)、年次の増減 外国人の割合(男女別、国籍別)	a. 人口: 男・女・年齢別(3歳以下・高齢者・後期高齢者)、年次の増減、外国人の割合
	② 社会資源の現状: 健康生活を守る社会の資源にはどのようなものがあるか。	a. 利用できる保健・医療・福祉の施設の実態、活動の実態 b. 施設とそこに従事する専門技術の人たちの考え方 マンパワー(専門職・非専門職、ボランティア) c. 健康保険・年金の種類別加入状況 d. 事業所における健康管理体制と能力の現状 e. 学校における健康管理体制と能力の現状	a. 医療機関分類別施設数、病床数、療育・リハ等専門病院の状況、 d. 国保加入状況、給付状況の推移、国民年金被保険者数、基礎年金給付状況、	d. 国保加入状況の推移
B 人々の 健康問題の 明確化	③ 健康指標の分析: 生物医学的指標による健康問題	a. 人口動態の分析 b. 死因別統計の分析 c. 疾病統計の分析 d. 健診異常者の現状 e. 発育・発達、体位、体力、栄養状態の現状など	a. 出生(出生数、出生率)、 b. 死亡(死亡数、死亡率、死因別死亡割合、ライフステージ別死因、妊産婦死亡、乳児死亡)～ずまゐる君から c. 特定疾患・小児慢性特定疾患の状況、身体障害者数: 級・部位別 国保受療状況、医療費給付の状況(KDB から) d. 特定健診の検査データ、生活習慣データ(KDB から) e. 発育・発達、体位: 乳幼児健診データ、	a. 地区毎の出生(出生数、出生率) ⇒代替として、地区別4か月児健診対象児数、地区別割合 c. 国保受療状況、医療費給付の状況(KDB から) ⇒医療費の多い疾患群順位 d. 国保特定健診検査データ(年齢調整済)の状況(KDB から) 男女別: BMI、腹囲、中性脂肪、血糖、HbA1c、尿酸、収縮期 血圧、拡張期血圧、LDL-C、クレアチニン
	④ 精神心理面の指標の分析: 精神的・心理的環境面の現状はどうか	a. 精神疾患などの健康障害の現状 b. 検診・健康相談・家庭訪問にみられる訴えの分析 c. 電話相談にみられる訴えの分析	a. 自立支援医療費支給認定状況、精神保健福祉手帳発行の状況 b. 成人訪問延件数、母子訪問延件数 (保健師実施分／全訪問件数) 乳幼児健康相談内容のまとめ、総合相談主訴まとめ、 c. 母子保健電話相談主訴まとめ	a-1. 地区毎の要対協ケース数。(乳幼児数／全数) a-2. 地区毎の自立支援医療費支給認定状況、 b. 乳幼児健診・母子訪問・健診・乳相からの新規要フォロー数 (ミケース数) ★成人保健事業: 地区別事業別ケース数
	⑤ 生活環境要因の分析: 生活環境は人間の健康を守るのにふさわしいか	a. 住環境の適否 b. 騒音・振動・悪臭などの有無 c. 空気・水・土壌の診断 d. 社会的問題の有無 など		★業務を通じ、保健師の眼でみたことや地区の関係者から把握例: 住まいや生活環境の様子。生活困窮の様子。
C 人々の 保健行動の 把握	⑥ 生活行動の分析: 人々の日常生活は健康を守るためによい行動をおこなっているか	a. 労働生活の現状 b. 食生活の実態と習慣 c. 入浴・清潔などの健康習慣行動 d. 住まい方 e. 睡眠の実態 など	a・b・c・d・e: 国保 KDB 特定健診結果の問診項目から 所沢市市民意識調査から	a・b・c・d・e: 特定健診問診項目(年齢調整済 国保 KDB から) 服薬、喫煙、朝食、間食、遅い夕食、早食い、体重増、30分以上 /回運動、1時間以上/日の運動、睡眠不足、飲酒
	⑦ 健康への態度・意識の分析: 意図人の健康生活への関心の有無は適切か	a. 健康に関する情報・知識 b. 健康障害や疾病罹患時の対応 c. 健康に対する価値観 d. “性”や “死”などへの態度・行動 e. 育児行動 など	a・b・c・d・e: 国保 KDB 特定健診結果の問診項目から 所沢市市民意識調査から	★a・b・c・d・e: 地区業務を通じて把握した事項で担当地区住民の健康生活への関心の持ち方を分析。
	⑧ 資源利用行動の分析: 健康生活を守るために社会資源を適切に活用しているか	a. 医療機関の利用(受療)行動の分析 b. 健康診査・健康診断への受診行動の分析 c. 自治体の保健活動への参加状況・関心度 d. 福祉制度・福祉事業の利用状況 など	a. 国保 医療給付状況(KDB)、後期高齢者医療給付状況 b. 国保特定健診受診率、30代健診受診率、後期高齢者健診受診率、生保健診受診率、がん検診受診率、精検受診率 c. 保健事業への参加状況(経年): 成人健康教育、成人健康相談、乳幼児健診受診率、乳幼児健康相談利用数 地域保健・健康増進事業報告 E. 生保受給状況、各種福祉手当支給状況、介護保険申請件数、認定件数(1号・2号) 身体障害者数、知的障害者数、精神保健障害者数 自立支援サービス申請・利用状況 保育園・家庭保育室利用状況	a. 国保受療状況、医療費給付の状況(KDB から): B-②重複 b. 地区別特定健診受診率(国保 KDB)、 (国保30代健診受診率。)※ (後期高齢者健診受診率。)※ (生保健診受診率)※ c. 地区毎の乳幼児健診受診率、乳幼児健康相談利用数 地区毎の成人事業への参加状況(交流会・相談など) d. 地区毎生保受給数 ※把握できるか不明な項目
	⑨ 家族の成り立ちと行動の分析: 家族生活は構成員の健康を守るためにどのように機能しているか	a. 家族の形態 b. 健康を守る行動とその家族内役割分担 c. 家族の機能についての考え方 d. 家族の結びつきの強さ、健康障害をかかえたときの対応能力 など		★a・b・c・d: 日頃の業務から視点に沿い、把握検討。
D 家族及び 地域社会の 共同生活の 把握	⑩ 地域社会の成り立ちと共同生活の分析: 地域社会への結びつきと共同生活の実態はどうなっているのか、人々の健康生活を守るためにどのように機能しているか	a. 各家庭の近隣同士の付き合い b. 町内会、自治会など地域組織の成り立ちとその活動 c. 地域を基盤とする諸団体の活動や関心 d. 地域組織や諸団体での健康生活への関心度・共同生活の可能性 など	地域コミュニティ推進室の地域づくりの方向性を把握	★・項目 abcd について 地区業務を通じて、まちづくり協議会等地区の関係者から聴取 ★・まちづくり協議会やそれに類する組織の醸成の状況と機能 ★・地区子育て支援ネットワーク会議の状況と確認されている課題、期待できる機能 ★・地域ケア会議の状況と確認されている課題、期待できる機能 ★・福祉ネット会議の状況と確認されている課題、期待できる機能

並木地区（並木・こぶし町・若松町・下新井・北原町・中新井）はこんなところ！

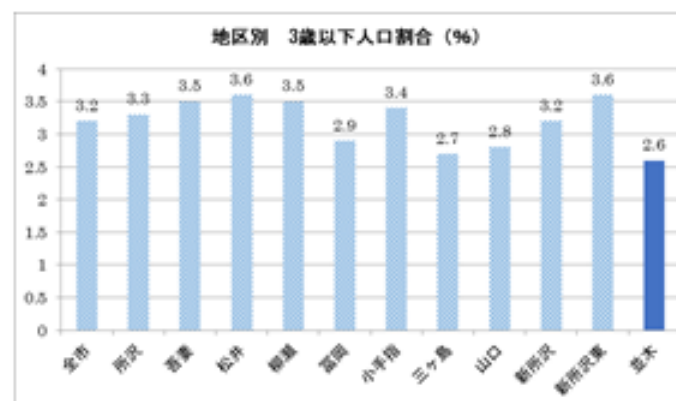
- ➡ 並木地区の人口は、24012人（所沢市の %）です。
- ➡ 高齢化率が高く、子どもの少ない地域です。
- ➡ 所沢市の中央に位置し、官公庁が集まる地域です。
- ➡ 基地が中心に位置し、その周りを住宅が囲んでいます。
- ➡ 食習慣に課題があります。

★ 高齢化率ナンバー1！ ★



平成29年3月31日時点

★ 最も子どもが少ない地域！ ★



★ 健診受診率が低い ★

朝食を食べない165～74歳の男性8.7%、女性6.1%
毎日飲酒する40～64歳の女性19.5%
埼玉県や所沢市の平均と比べると、多いです。

平成29年8月22日 地区診断にて作成 並木地区担当 齊藤、宮本

②平成28年度 … 計画・実施・評価

枠組み：「地区保健活動計画」（14地区ごと）

取組み：地区診断結果から、地区ごとに短期

目標「力のある住民に出会う」

など決め、年間計画立案・実施

共有：中間報告会、年間報告会で取組・結果
を発表



「計画立案・実施途中の段階で助言がほしい」

「保健所にも、実施途中から関わってほしい」

《 地区保健活動計画様式 》

[illegible]

③平成29年度・・・継続実施

計画立案前（6月）：「地区活動意見交換会」
狭山保健所副所長を招いて行う



その地区なりの事情、正直な今後への戸惑い、
ノウハウの悩みが出された

現在：各地区保健活動計画立案・実施中

4. 地区診断取組後の変化



《 保健師自身の変化 》 その1

意識

- * 保健師どうし、「地区活動をどうしよう」と意識的にやりとりできるのが良い
- * 保健師が「知ろう」「伝えよう」「共有しよう」とすれば、「住民は応えてくれる！」とわかった！

行動

- * 普段の業務を通じて、地域の暮らし、住民同士の関係性、環境を把握する姿勢に転換
- * 負担だった会議は、地域の今を把握できる、課題を伝えられる場として出席したい場となった

《 保健師自身の変化 》 その2

業 務

- * 乳健担当保健師が、健診票改変にあたり、親自身の健康のことを入れよう！

「お父さん、お母さんは毎年健診を受けていますか」

「お父さん、お母さんはかかりつけ医を持っていますか」



子育て世代の市民の健康管理の実態、
非正規雇用の実態などが見え始めた

《 地域関係者の変化 》 その1

～ 保健師が地区の健康課題を伝え始めたことを発端に… ～

地域包括支援センター

- * 地域課題「糖尿病が多い」の共有から、生活習慣病予防は介護予防につながると捉え、介護予防教室のテーマに「糖尿病予防」を取り上げる
- * お互いの課題や目標を知り合い、活用し合うことを合意
「地域の若い人を支援者となるよう育てよう」を共通の目標と確認する

社会福祉協議会

- * 保健師の課題からの地区活動の取組について、情報交換の要請

《 地域関係者の変化 》 その2

民生児童委員

- * 保健師から地区健康課題の話を聞き、民生委員内部の勉強会を自主企画
- * 民生委員だよりも、自ら健康課題の記事を掲載
地区の乳幼児健康相談に協力開始

一般市民

- * 保健師が伝えた地区の特徴「坂道が多い」から…
 - ⇔ 坂道が多いこの土地に愛着を持って生活
 - ⇒ 「坂道に負けない身体づくり」 （強み）をテーマに
地区での健康教育展開につながる

5. 今後の課題



地区担当制転換後の課題

- ① 成人・母子業務の融合と、すべての業務・ケースに対応できること



達成

- ② 業務評価と地区診断による課題の抽出から有効な保健活動を整理し取り組む
- ③ 業務を整理、センター事業から地区活動への転換

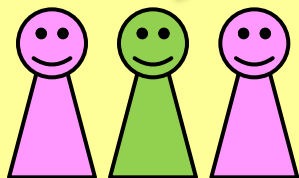


どのような判断・過程で整理・再編し、
地区に力点を置くよう転換すればよいかで
立ちどまり、1年経過

改めて確認した課題 1

- ① 地区担当制による目的・課題解決につながる保健活動への道筋を示せていない

若手（一部）の声

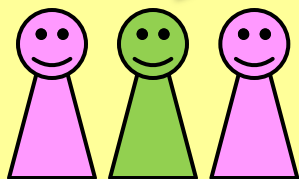


- * 診断は負担、義務的にやっている
- * 診断をどう地区の保健活動に活かすのか
- * 地区に保健活動の展開をどう持ちかけるのか

地区活動が進んでいる実感・手応えを感じられるよう導けていない

改めて確認した課題 1

中堅（一部）の声



- * 今は、地区の状況から何でも好き勝手に取組んでいると感じる。
- * 今の地区活動は何のため？事業の改善？
- * 地域の何に対してどのようなことになることを目指すのかわからない

今の所沢市の地区課題から地区活動への取り組み方は成果を出す道筋として、納得できるものではない。

「とにかくやってみて…」の粗い指示では、ダメ！

改めて確認した課題 2

② 地区活動への力点転換の方針を明確に示せていない

地区に入りこんで実践しないとわからない活動の
醍醐味・得られない結果があるはず



- 整理しきれない事業・困難ケースを持ったまま地区に飛び込めない（飛び込めと言えない）
- 過去の失敗経験から二の足を踏む

今後に向けて・・・

- 課題に基づき効果をあげられる事業体系に組み直そう
- 地区に出て感じたことを市全体の事業に活かしたい。
⇒ 地区の気づき・取組みを吸い上げる仕組みが必要
- 保健所副所長から・・・共通目標は、市の計画の目標とのつながりを示し、上にも成果が見えるようにしよう
⇒ 「ここを目指して、各地区取組んでいる」と各職員が納得できる目標を示そう



6チーム長＋グループリーダーで作業開始

最後に思うこと



- ★どんな担当制であっても、地区全体をみているという感覚を持ち続けられるようにしたい
地区担当制となって「地区活動」「地区診断」を主語とした会話が増えた…
体制として保障することは大事
- ★ いろんな段階の保健師それぞれにつき合いつつ、皆を引っ張っていく力を
持ち続けなければと思う
- ★ 地区担当制への他職種理解があって実現できている
- ★ 「忙しいけれど楽しい・もっと住民と関わりたい」
皆がそう思える保健師活動となるためにと思う





ご清聴

ありがとう

ございました♪